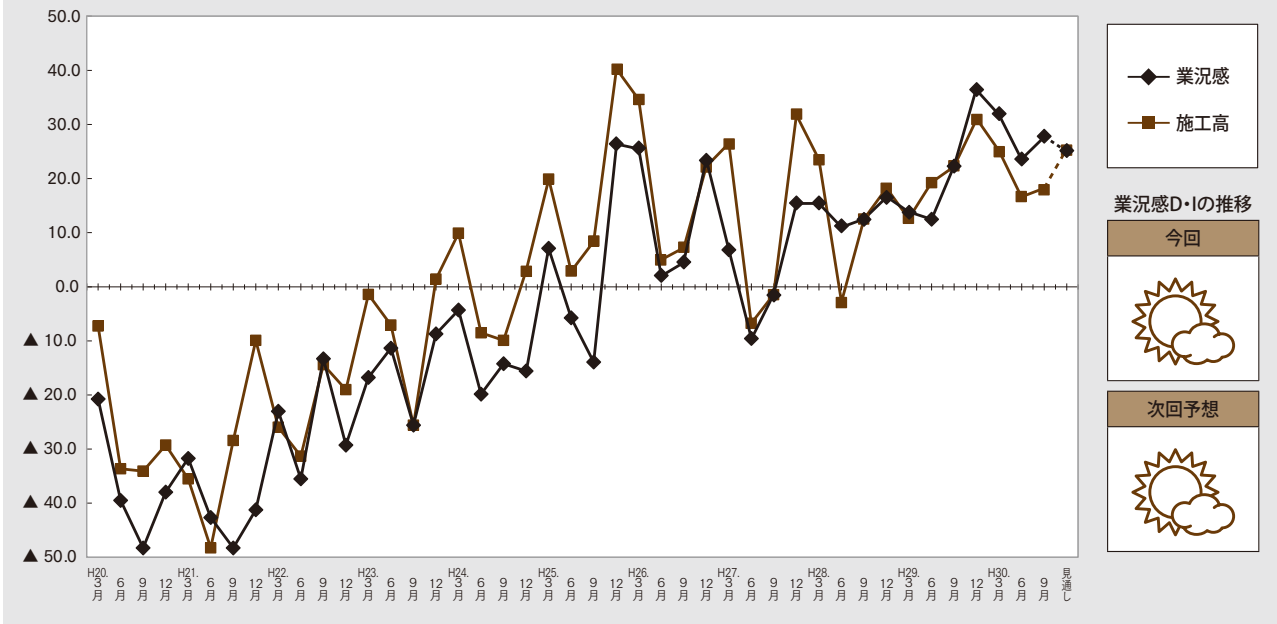


建設業

Construction industry

業況感 好調を維持

D・I 推移グラフ (建設業)



1 今期 (平成30年7 - 9月期)

建設業の業況感は今期27.8(前期23.6)と、前期と比較し4.2ポイント上昇し、依然として好調を維持している。施工高、収益も前期と比較するとやや改善し、依然として増加傾向にある。一方で、材料価格は6.9ポイント上昇し、価格の上昇傾向が強まっている。在庫はD I値マイナスとなっているもののほぼ適正で、資金繰りも安定している。人手の不足感は平成24年12月以降マイナスで継続しており、慢性的なものとなっている。

2 来期の予想 (平成30年10 - 12月期)

来期の業況感はD I値で2.8ポイント悪化するものの、良好な景況感が維持できる見込みである。施工高、収益も引き続き好調に推移し、材料価格は上昇傾向が続くものの、資金繰りも安定の見通しである。なお、人手不足感は悪化が予想され、解消の目処は立っておらず、予想通りのD I値となれば二桁の不足感は10期連続となる。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H29. 9月期	H29. 12月期	H30. 3月期	H30. 6月期	H30. 9月期	来期 見込み
業況感	22.2	36.6	31.9	23.6	27.8	25.0
施工高	22.2	31.0	25.0	16.7	18.1	25.4
収益	16.7	29.6	25.0	18.1	19.4	18.3
請負価格	▲ 6.9	12.7	4.2	4.2	8.3	7.0
材料価格	▲ 22.2	▲ 16.9	▲ 18.1	▲ 13.9	▲ 20.8	▲ 19.7
在庫	1.2	11.1	8.3	▲ 2.7	▲ 1.4	▲ 4.2
資金繰り	▲ 11.1	0.0	8.3	5.6	4.2	7.0
人手	19.4	25.4	25.4	22.2	15.3	18.3
設備状況	6.9	5.6	4.2	7.0	2.8	7.1

業況調査メモ

建設業界でドローンの導入が進んでいる。道路や河川、橋などを空撮した写真と、地上レーザーで測定した座標や色の情報をコンピューター処理し、立体的な形状をデータで復元している建設コンサルタント会社がある。建築物を空から見ることで、改修個所の発見や保守点検に生かしているリフォーム業者もある。災害の際は、人の入れない現場を空撮することでいち早く状況を把握し、適切な復旧策を講じることができる。建設現場でのICT活用技術の進歩は目覚ましい。ドローンなどの“新兵器”を自社の生産性向上に生かせるか、建設業者にとって重要な経営課題となっている。